

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

**小学校低学年の児童に、
平仮名の読みを教える。**

学級の実態

- 何らかの支援が必要な児童が多い。
- 集中がとぎれやすく，持続が難しい。
- 平仮名を全て読める児童が少ない（1年2学期当初）
- できている児童を褒めることで，他の児童も気づいて行動できる。

教員の考え

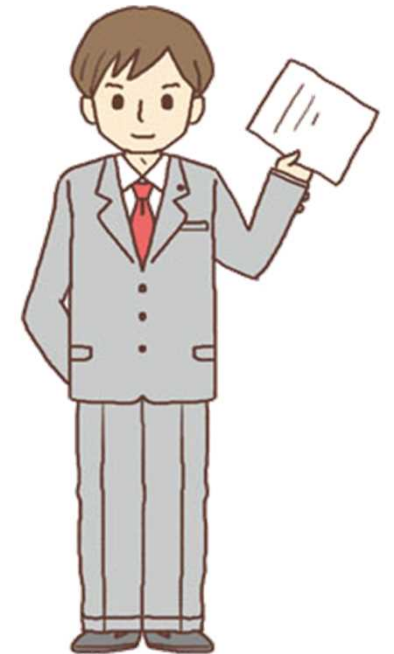
○平仮名がすらすら読めるようになってほしい。



アドバイザーからの助言

平仮名をすらすら読む

- 各児童の短期目標，長期目標を決める。
- まず目指す目標をどこに設定するか。
- ステップに応じて何を指標として測定するか。



指導目標(長期)

年度末までの目標





○国語の教科書程度の単語や文をすばやく間違わずに読むことができる。

指導目標(短期)


ステップ1～15

ひらがなのたつじんになろう
ばあと 1

★ それぞれの すてっぷに こうかくしたら しいるを はりましょう。
★ それぞれの すてっぷに こうかくしたら つぎの すてっぷに
すすんでいきましょう。
★ ぜんぶの すてっぷが こうかくしたら こほうひが あるよ。

すてっぷ	めあて	ごほう
すてっぷ 1 $\frac{1}{28}$	★「あ」から「ん」までの ひらがなのかあどを ばらばらにして まちがいないける。	
すてっぷ 2 $\frac{2}{28}$	★「あ」から「ん」までの ひらがなのかあどを ばらばらにして 1ぶんまでに まちがいない いうことができる。 56びょう	
すてっぷ 3 $\frac{3}{28}$	★「が」「ば」のような 「」や「。」のついたひらがなを ひょうをみながら まちがいない いうことができる。	
すてっぷ 4 $\frac{4}{28}$	★「が」「ば」のような 「」や「。」のついたひらがなの かあどを ばらばらにして 40びょうで まちがいない いうことができる。	

すてっぷ1 から すてっぷ4 まで こうかく
おめでとう



例：

〈ステップ1〉

「あ」～「ん」までの平仮名カード
をバラバラにして間違わずに読
める。

〈達成基準〉

各ステップごとに
めあてが3回
クリアできたら達成。
→シールゲット

方法

【対象児】

通常学級 3名

【指導場面】（個別指導）

放課後 夏休み

方法(教材)

ステップ1~5(一文字ずつ)



絵入り平仮名カード
(覚えるため)



文字のみのカード
(読めるようになったか確かめるため)

ひまわり	にわとり	しまうま	きつね	しんぶん	らくだ	やかん	はさみ	たけのこ	さかな	ことば	すてっぷ①
										ごうかく	

がっき	おにごっこ	かっぱ	きつて	せつけん	かけっこ	らっぱ	もつきん	はらっぱ	しっぽ	ことば	すてっぷ①
										ごう	

ステップ11~15(単語)

結果

〈A児〉 ステップ1 → ステップ5

〈B児〉 ステップ1 → ステップ1 4

〈C児〉 ステップ1 → ステップ1 4

- 「ひらがなのたつじんになろう」カードを作成したことにより、児童たちが見通しをもって取り組むことができた。
- スモールステップで達成できたらご褒美をもらえることで、意欲を持って取り組むことができた。

実施後の変化(観察)

- 平仮名を読むことへの抵抗感が減ってきたように感じる。
- 読めるようになることで、板書を写せるようになってきた。
- 様々な活動後、自分の思いを表現しようとするようになってきた(文に書く，発表する)。



ここが成功のポイント



- 毎日繰り返し練習する機会が多い行動を目標に設定し、称賛する機会を増やしたこと。
- 教員の思いを具体的な目標として設定し、児童にも分かりやすくしたこと。
- ステップを細かくして児童個々の進捗状況を丁寧につかめるようにしたこと。